

## 平成 25 年度 政務活動費 先進都市調査報告書

会派名	市民ネット・むろらん
議員名	水江一弘・児玉智明・小田中稔・高橋直美・立野浩靖
調査実施年月日	平成 25 年 1 月 28 日(火)
調査先 自治体名等	福岡県北九州市
調査項目	北九州水素タウンについて
調査目的	製鉄所で製造された水素を活用し、実証試験を行っている北九州市の取り組みを検証して本市における水素利用社会の取り組みを進めるため
報告内容 実施したこと	<p>1 視察先(市町村)の概要 人口:983,236人(H25.6.1現在) 行政面積:489.56km<sup>2</sup></p> <p>2 視察内容 八幡東田グリーン・ビレッジ事業について</p>
感想(まとめ) 本市へ生かせること等	<p>北九州市は平成 20 年に国の環境モデル都市の指定を受け、翌、21 年には北九州グリーンフロンティアプランを策定して地球温暖化防止のための低炭素社会実現に向け取り組んでいます。</p> <p>5 つのリーディングプロジェクトの中でも八幡東田グリーン・ビレッジ事業は工場跡地を再開発して世界初の先進的実験モデルとして、水素を活用したまちづくりに取り組んでおり、工場副生水素をパイプラインで市街地に供給して燃料電池による分散型発電実証実験に着手しています。また、平成 21 年 9 月には燃料電池自動車の水素供給ステーションの運転を開始しています。</p> <p>家庭用燃料電池エネファーム(電気とお湯を同時に作りだす装置)を稼働させている集合住宅を視察しましたが、この装置はお湯が一定の温度に達すると発電が止まってしまうとのことで、寒冷地に適しているのではとの感想を持ちました。水素ステーションの視察では平成 27 年から燃料電池自動車の市場投入が始まることから北九州市では公用車への導入や地場企業への普及啓発を行っていく予定であるとのことでした。また、これらの取り組みには現時点では大手企業に限定されており、地場企業への波及効果はまだはっきりと表れてはいないとのことでした。</p> <p>本市では室蘭グリーンエネルギータウン構想を平成 25 年度から 2 カ年の計画で策定中ですが、この中で水素社会実現にむけた取り組みを進めようとしています。水素を活用したまちづくりという点では北九州市の製鉄副生ガス(コークス炉ガス)の活用はほぼ実用化されており、本市も同じ条件下にあることなど、これからの水素事業の展開としては本市が持つポテンシャルはきわめて大きいものがあります。我が国における積雪寒冷地帯での事業展開を考えると、北関東以北での本市の優位性は揺るぎないものであり、北海道における拠点として産・学・官・民が協働して強力に進めるべきとの感想を持ちました。</p>